

各調査地点における調査結果

各調査地点の生物生息状況と水質 (1/20)

調査地点 No.1 / 武庫川 / 山陽新幹線橋梁上流

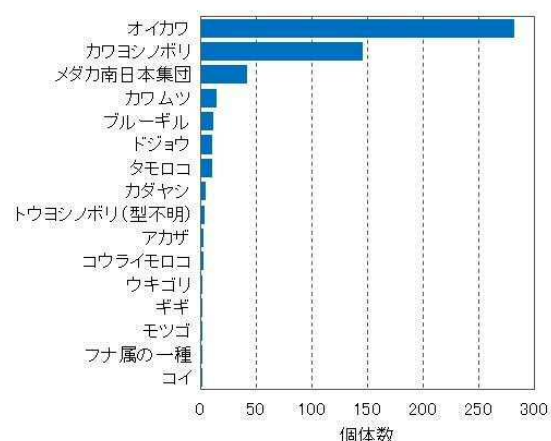
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

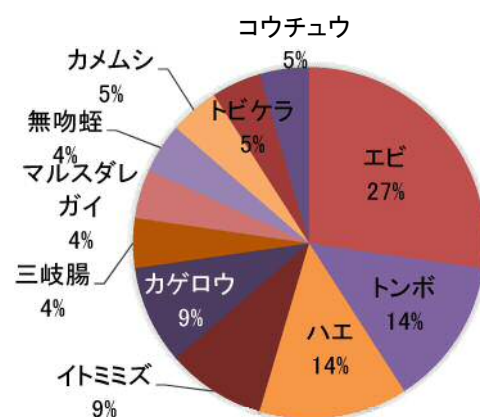
川幅	100.0 m
水深	0.23 m
流速	0.55 m/s
底質材料	砂、粗礫、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸 抽水植物が生育
周辺土地利用	住宅地、学校

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 2.0$ $1/\lambda = 2.7$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.8$ $1/\lambda = 3.7$

【魚類】

- ・生息確認種数は 16 種、個体数合計は 531 個体。
- ・優占種はオイカワ (優占率 53.1 %)。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 22 種。
- ・個体数による優占種は *Dicrotendipes* 属の一種 (ユスリカ科、優占率 50.4 %)。
- ・湿重量による優占種は *Corbicula* 属の一種 (シジミ科、優占率 84.8 %)。

【調査地点の特徴】

- ・魚類確認種は淡水魚がほとんどであり、特にオイカワの個体数が多かった。
- ・希少種・絶滅危惧種であるコウライモロコとドジョウ、アカザ、メダカ南日本集団、ウキゴリを、特定外来生物であるカダヤシとブルーギルを確認した。
- ・多様な底質が堆積して抽水植物が生育し、底生動物の種数、多様度指数とも高かった。
- ・水質はやや汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも臭気はなかった。

水質判定結果

βms (β 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (2/20)

調査地点 No.2 / 武庫川 / 武庫川橋下流

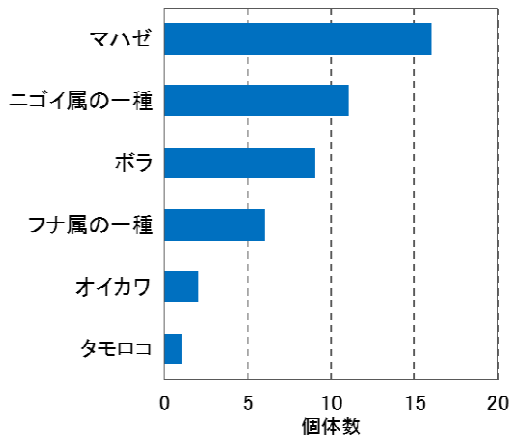
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

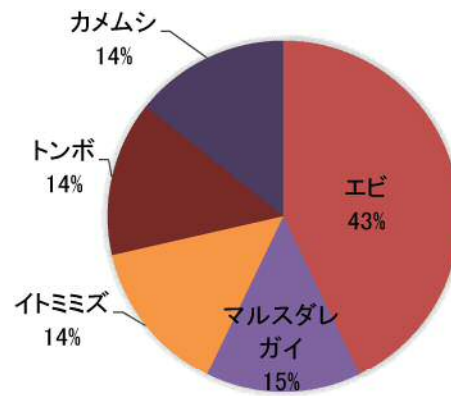
川幅	110.0 m
水深	0.44 m
流速	0.03 m/s
底質材料	砂、細礫、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 2.2$ $1/\lambda = 4.4$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 0.0$ $1/\lambda = 1.0$

【魚類】

- ・生息確認種数は 6 種、個体数合計は 45 個体。
- ・優占種はマハゼ (優占率 35.6 %)。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 7 種。
- ・優占種は、個体数・湿重量ともにミズミミズ科 (優占率 100.0 %)。

【調査地点の特徴】

- ・ボラやマハゼ、クロベンケイガニ、モクズガニ等が生息しており、汽水域との連続性が保たれている。
- ・底生動物の定量採取ではミズミミズ科のみを採取したため、多様度指数は最低となった。
- ・流速がかなり小さく、水温が高かった。
- ・水質はやや汚濁が進んでおり、水色は灰褐色であったが、臭気はなかった。

水質判定結果

βms (β 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (3/20)

調査地点 No.3 / 2号水路 / 水道局取水施設下流

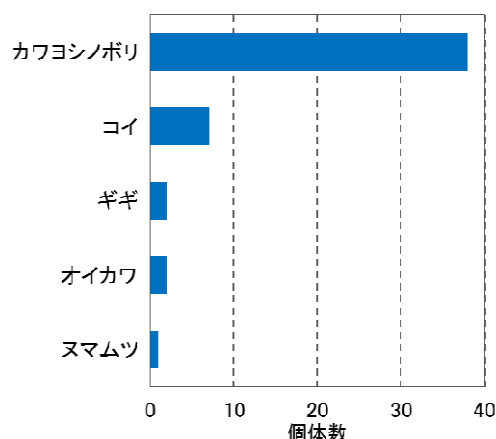
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

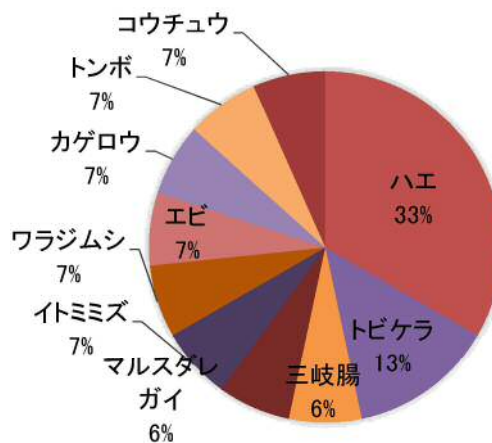
川幅	2.0 m
水深	0.33 m
流速	0.25 m/s
底質材料	コンクリート、砂、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸 沈水植物が生育
周辺土地利用	住宅地、畑、道路

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.2$ $1/\lambda = 1.7$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.7$ $1/\lambda = 4.6$

【魚類】

- ・生息確認種数は5種、個体数合計は50個体。
- ・優占種はカワヨシノボリ（優占率76.0%）。

【底生動物】

- ・生息確認種数は15種。
- ・個体数による優占種は Corbicula 属の一種（シジミ科、優占率39.2%）。
- ・湿重量による優占種は Stictochironomus 属の一種（ユスリカ科、優占率52.3%）。

【調査地点の特徴】

- ・魚類確認種は淡水魚のみであり、特にカワヨシノボリの個体数が多かった。
- ・浮き石があって沈水植物が生育しており、多様な生物の生息・繁殖に適した環境となっており、底生動物の多様度指数は高かった。
- ・清水性の種であるカゲロウ科とトビケラ科の確認種数が他の調査地点よりやや多く、水質は清冽であった。

水質判定結果

os (貧腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (4/20)

調査地点 No.4 / 2号水路 / 長生福祉会南側

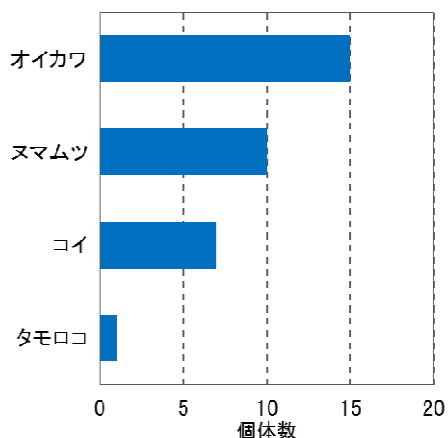
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

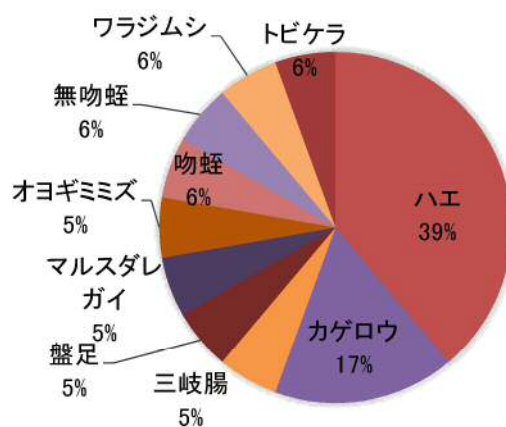
川幅	3.0 m
水深	0.12 m
流速	0.30 m/s
底質材料	砂、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地、鉄道高架

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.7$ $1/\lambda = 3.1$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.0$ $1/\lambda = 2.6$

【魚類】

- ・生息確認種数は4種、個体数合計は33個体。
- ・優占種はオイカワ（優占率45.5%）。

【底生動物】

- ・生息確認種数は18種。
- ・優占種は *Dicrotendipes* 属の一種（ユスリカ科）で、個体数優占率は60.5%、湿重量優占率は39.5%。

【調査地点の特徴】

- ・魚類の確認種は淡水性のコイ科魚類のみであった。
- ・水深は0.12 mと小さく、砂が堆積していた。
- ・水際はコンクリートの直壁で、水生植物等が生育可能な環境ではなかった。
- ・水質はかなり汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも臭気はなかった。

水質判定結果

ams (α中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (5/20)

調査地点 No.5 / 浜田排水路 / 生津一の橋上流

【調査地点の状況】



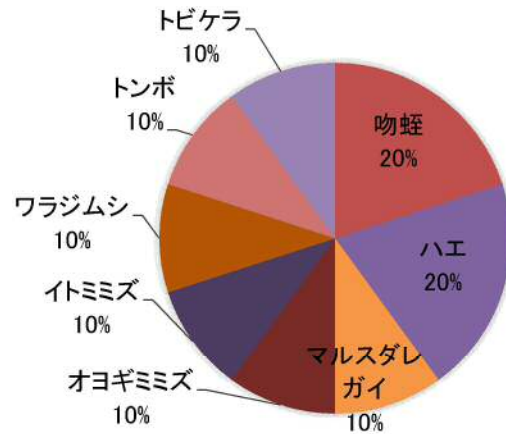
【調査地点の概要】

川幅	3.0 m
水深	1.40 m
流速	0.00 m/s
底質材料	中礫、小石、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】
(捕獲なし)

多様度指数 : 不明

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 2.5$ $1/\lambda = 5.2$

【魚類】

- ・魚類の生息は確認できなかった。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 10 種。
- ・個体数による優占種は Dero 属の一種 (ミズミミズ科、優占率 37.5 %)。
- ・湿重量による優占種は Corbicula 属の一種 (シジミ科、優占率 99.4 %)。

【調査地点の特徴】

- ・流路は単調で水生植物の生育もなく、魚類の生息には適していない環境であった。
- ・流速は測定限界以下でほぼ止水となっており、中礫等が堆積していた。
- ・周辺は住宅地で上流側に放流口があり、汚濁負荷が流入しやすい環境であった。
- ・水質はかなり汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも臭気はなかった。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (6/20)

調査地点 No.6 / 浜田排水路 / 今北橋上流

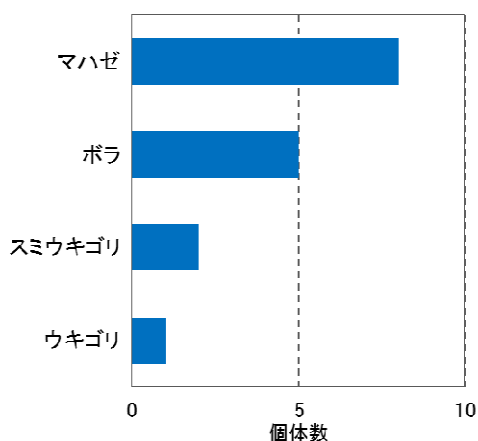
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

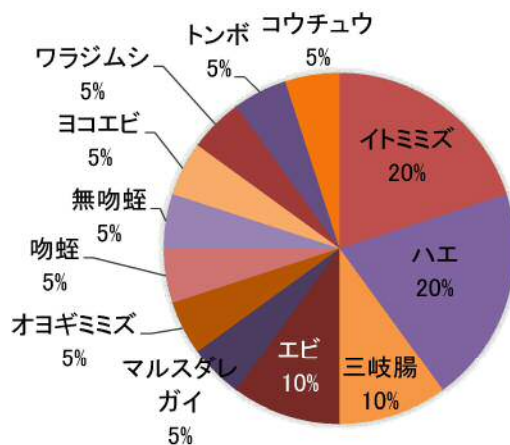
川幅	5.0 m
水深	0.08 m
流速	0.30 m/s
底質材料	砂、中礫、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸 沈水植物が生育
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.6$ $1/\lambda = 3.1$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 3.4$ $1/\lambda = 7.7$

【魚類】

- ・生息確認種数は 4 種、個体数合計は 16 個体。
- ・優占種はマハゼ (優占率 50.0 %)。

【底生動物】

- ・生息確認種数は 20 種。
- ・優占種は Corbicula 属の一種 (シジミ科) で、個体数優占率は 23.9 %、湿重量優占率は 97.6 %。

【調査地点の特徴】

- ・ボラやマハゼなどが生息しており、汽水域との連続性が保たれている。
- ・砂や中礫が堆積し、浮き石があって沈水植物が生育しており、多様な生物の生息・繁殖に適しており、底生動物の多様度指数は全調査地点中で最も高かった。
- ・周辺は住宅地で上流側に放流口があり、汚濁負荷が流入しやすい環境であった。
- ・水質はかなり汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも臭気はなかった。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (7 /20)

調査地点 No.7 / 蓬川 / 第二蓬川橋上流

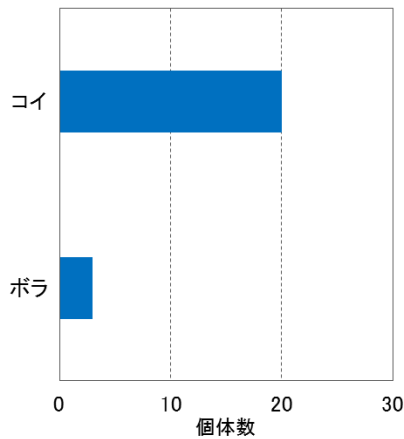
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

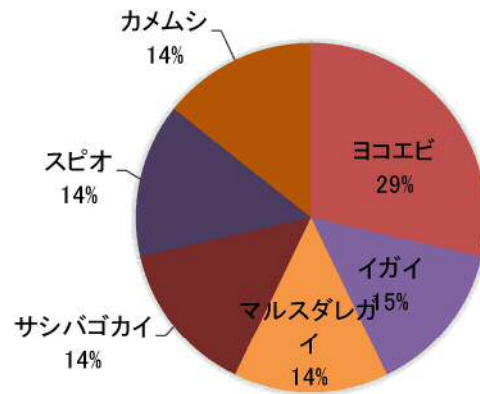
川幅	20.0 m
水深	0.70 m
流速	0.00 m/s
底質材料	泥
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 0.6$ $1/\lambda = 1.3$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 0.6$ $1/\lambda = 1.3$

【魚類】

- ・生息確認種数は2種、個体数合計は23個体。
- ・優占種はコイ（優占率87.0%）。

【底生動物】

- ・生息確認種数は7種。
- ・優占種はコウロエンカワヒバリガイで、個体数優占率は85.1%、湿重量優占率は99.5%。

【調査地点の特徴】

- ・魚類確認種はコイとボラで、体長350mm以上の大型個体を目視により確認した。
- ・底生動物の確認種数は7種と少なく、またコウロエンカワヒバリガイの優占率が高かったため、多様度指数は低い結果となった。
- ・流速は測定限界以下でほぼ止水状態で、潮汐の影響（痕跡）を目視により確認した。
- ・水質はかなり汚濁が進んでおり、底質は強硫化水素臭を呈しており、河床部は無酸素状態となっていた。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (8/20)

調査地点 No.8 / 蓬川 / 明倫橋上流

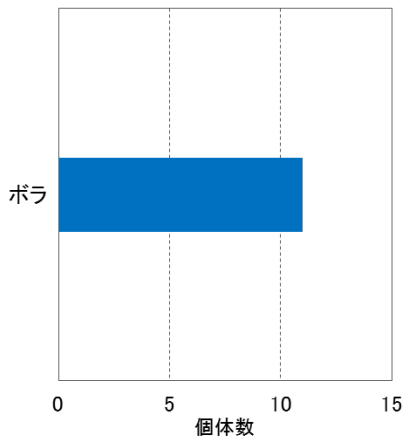
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

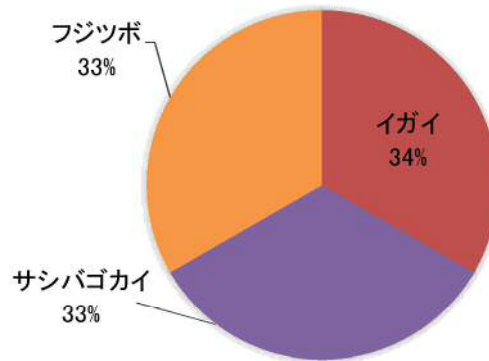
川幅	20.0 m
水深	2.80 m
流速	0.00 m/s
底質材料	泥
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地、公園

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 0.0$ $1/\lambda = 1.0$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : 不明

【魚類】

- ・ 生息確認種数は1種、個体数合計は11個体。
- ・ 優占種はボラ（優占率 100.0 %）。

【底生動物】

- ・ 生息確認種数は3種。
- ・ 定量調査では底生動物を採取することができなかったため、優占種は不明。

【調査地点の特徴】

- ・ 魚類確認種はボラのみで、体長 350 mm 以上の大型個体を目視により確認した。魚類の多様度指数は最低となった。
- ・ 底生動物の確認種数も少なく、定量採取では底生動物を採取できなかった。
- ・ 流速は測定限界以下でほぼ止水状態で、潮汐の影響（痕跡）を目視により確認した。
- ・ 水質はきわめて汚濁が進んでおり、底質は硫化水素臭を呈しており、河床部は無酸素状態となっていた。

水質判定結果

ps (強腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (9/20)

調査地点 No.9 / 西富松排水路 / 道水橋上流

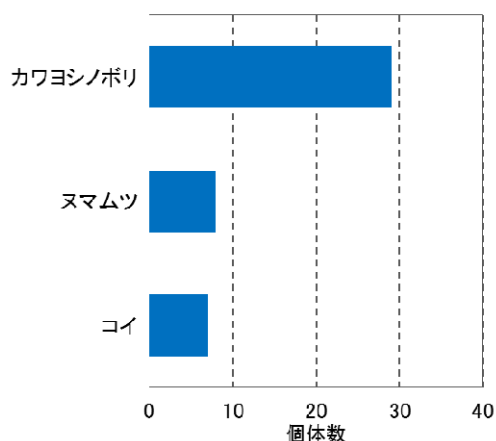
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

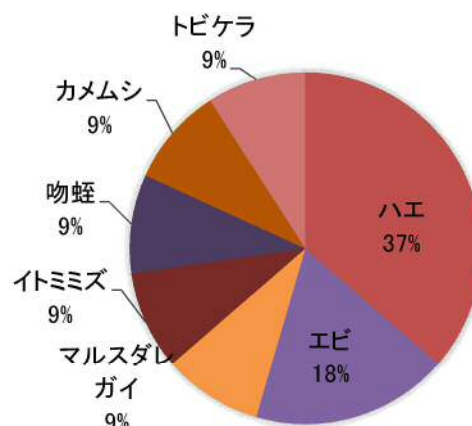
川幅	4.0 m
水深	0.17 m
流速	0.15 m/s
底質材料	砂、浮き石あり
水際の構造	コンクリート護岸
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 1.3$ $1/\lambda = 2.1$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 0.9$ $1/\lambda = 1.3$

【魚類】

- ・ 生息確認種数は 3 種、個体数合計は 44 個体。
- ・ 優占種はカワヨシノボリ (優占率 65.9 %)。

【底生動物】

- ・ 生息確認種数は 11 種。
- ・ 優占種は *Micropsectra* 属の一種 (ユスリカ科) で、個体数優占率は 86.6%、湿重量優占率は 39.5%。

【調査地点の特徴】

- ・ 魚類の確認種数は 3 種と少なく、カワヨシノボリの個体数が他の魚種より際立って多かったため、魚類の多様度指数は低い。
- ・ 底質は砂が主であり、底生動物の種数は少なく、多様度指数も低かった。
- ・ 周辺は住宅地で上流側に放流口があり、汚濁負荷が流入しやすい環境であった。
- ・ 水質はかなり汚濁が進んでいるものの水色は透明で、水・底質とも臭気はなかった。

水質判定結果

ams (α 中腐水性)

各調査地点の生物生息状況と水質 (10/20)

調査地点 No.10 / 庄下川 / 東川端橋上流

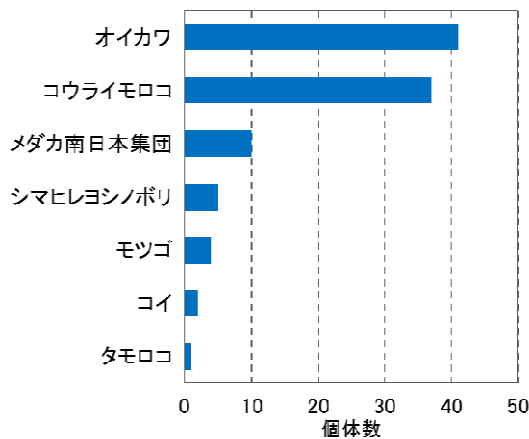
【調査地点の状況】



【調査地点の概要】

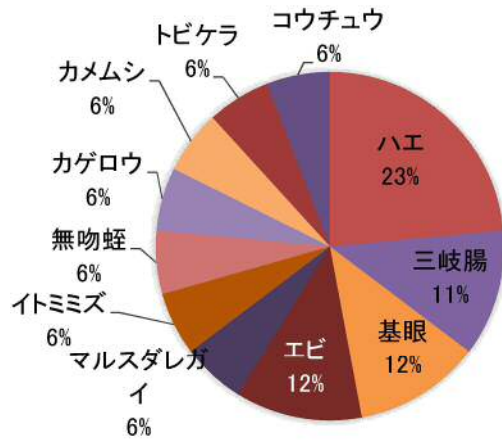
川幅	6.0 m
水深	0.15 m
流速	0.32 m/s
底質材料	砂、中礫、浮き石あり
水際の構造	木工沈床 抽水植物、ヨシ類やその他の草本が生育
周辺土地利用	住宅地

【魚類 確認個体数】



多様度指数 : $H' = 2.0$ $1/\lambda = 3.2$

【底生動物 目別出現種数割合】



多様度指数 : $H' = 3.0$ $1/\lambda = 6.6$

【魚類】

- ・生息確認種数は7種、個体数合計は100個体。
- ・優占種はオイカワ (優占率 41.0%)。

【底生動物】

- ・生息確認種数は17種。
- ・個体数による優占種は *Micropsectra* 属の一種 (ユスリカ科、優占率 28.4%)。
- ・湿重量による優占種は *Corbicula* 属の一種 (シジミ科、優占率 68.9%)。

【調査地点の特徴】

- ・希少種・絶滅危惧種であるコウライモロコとメダカ南日本集団を確認した。
- ・護岸部には木工沈床が施工され空隙が多く、抽水植物等も繁茂しているため多様な生物の生息・繁殖に適しており、底生動物の多様度指数は高かった。
- ・水質は清冽であった。同一水系の上流に位置する調査地点 No.9 では汚濁がかなり進んでおり、No.10 の上流で流入する支流等により汚濁が希釈されている可能性がある。

水質判定結果

os (貧腐水性)